

# 扇川の生き物と水環境

## 1 扇川の概要

扇川は、緑区藤塚の大池を源として、神沢川や手越川など多数の河川が合流した後、天白川に合流する延長約9.8kmの河川です。合流点から焼田橋までの約4割は感潮区間です。

扇川の流域は、おおむね全域が宅地化されていますが、かつて農業用に利用されていた数多くのため池が残っています。



## 2 扇川の生き物

扇川では、2024年度に調査を行った結果、上中流部（順流区間）で計20種類の魚類が見つかりました。ニホンウナギやミナミメダカ、カワアナゴなどの貴重な生き物も確認されています。

オオクチバスなどの特定外来生物が確認されており、生態系への影響が懸念されます。

- ★：名古屋市の絶滅危惧種
- ▲：特定外来生物
- ：魚が確認された区間

魚種	中流部	上流部
★タモロコ, ★ナマズ, ★トウカイヨシノボリ, フナ属, モツゴ, メダカ, カムルチー		■
★ミナミメダカ, コイ, オイカワ, ▲カダヤシ	■	■
★アユ, ★ニホンウナギ, ★カワアナゴ, ボラ, マハゼ, ヌマチチブ, ゴクラクハゼ, ヨシノボリ属, ▲オオクチバス	■	
種類数	13	11



★ニホンウナギ



★アユ



★カワアナゴ



ヌマチチブ

### 3 扇川の水質

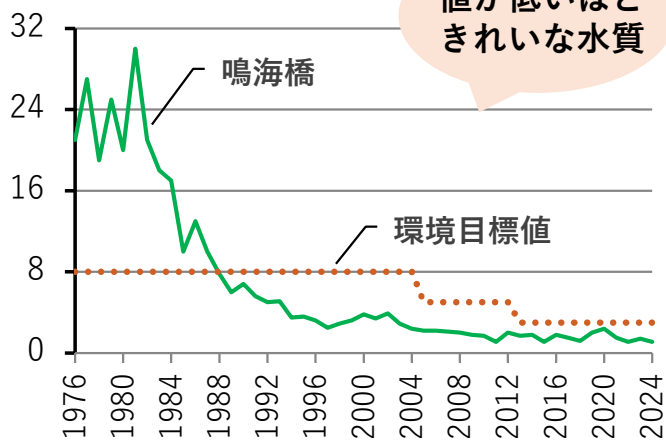
扇川流域の上流区域は、かつて山林や農耕地が広がっていました。しかし、1965年以降に大規模な宅地開発が進んだことで市街化が進み、家庭からの生活排水や事業排水が増加しました。

これらの排水が直接扇川へ流れ込んでいたため、水質は悪化していました。その後、下水道の整備・普及が進んだことで、生活排水などがそのまま川に流入することがなくなり、水質は徐々に改善してきました。

環境保全条例に基づき、水質の監視を行っている「鳴海橋地点」では、DOやBODが継続して環境目標値を達成しています。

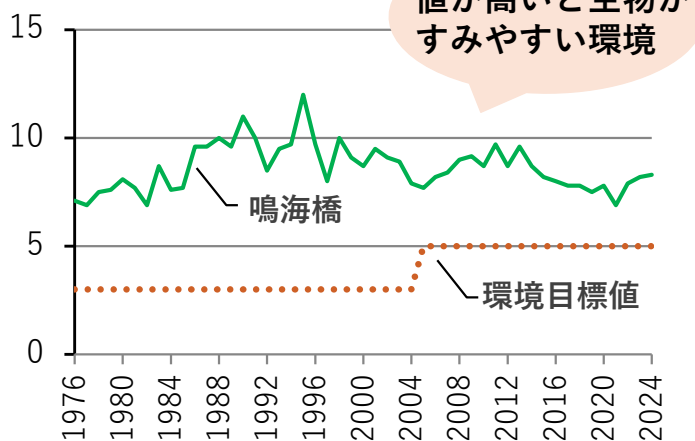
#### ◆ 水質（BOD,DO）の経年変化

**BOD 75%値 (mg/L)**



環境目標値：(1974年～)8mg/L以下, (2005年～)5mg/L以下  
(2014年～)3mg/L以下

**DO 平均値 (mg/L)**



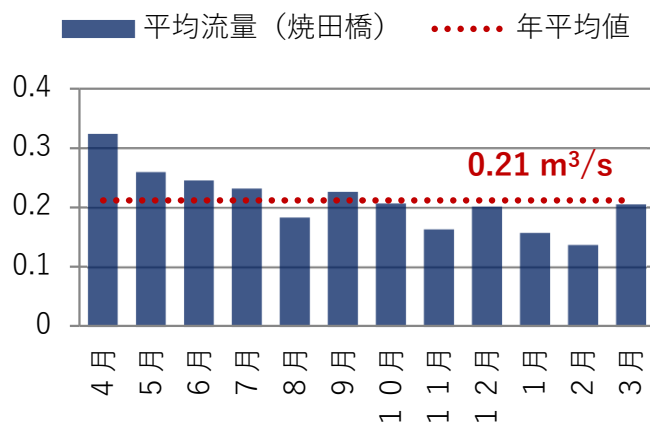
環境目標値：(1974年～)3mg/L以上, (2005年～)5mg/L以上

### 4 扇川の流量

扇川流域の生活排水などの汚水は、下水道の整備・普及に伴い、現在では鳴海水処理センターで処理され、天白川へ放流されるようになりました。その結果、扇川の主な水源は雨水のみとなり、水量が減少しております。

晴天時には焼田橋付近の水深が20cmに満たないこともあり、水深・水量ともに十分ではありません。そのため、晴天時の流量の確保が課題となっています。

#### ◆ 月別平均流量 (m<sup>3</sup>/s)



(2015年度～2024年度)